

午後 1 時 0 0 分 再開

○岡田議長 休憩前に引き続き会議を開き、市政一般に対する質問を続行いたします。

田村議員。

〔田村議員質問席へ〕

○田村議員 会派自由創政、打って出る米子市を目指す田村謙介でございます。

本日はシティプロモーションの推進について・8、そして米子城跡の復元とにぎわい創出について・19ということで質問をしております。9月議会最終質問者ということで若干緊張しておりますけれども、有終の美を飾りたいなと思っております。

また、私、先日、還暦を迎えました。選挙に出たときは48歳、まだまだ動けますと訴えてたんですけど、もう12年ということで、そろそろしっかりと実績も残したいなと思っておるところでございます。本日も明快な御答弁をよろしくお願いをいたします。

それでは、まずお伺いをしてまいります。シティプロモーションの施策、これは本市もずっとやってらっしゃると思うんですが、このシティプロモーションというのは、ややもすれば、広報活動で止まってしまってるんじゃないかというような思いがあって、私も度々質問をさせていただきました。このシティプロモーションと広報活動という大きな違いというのは、まず、それが戦略的で能動的な営業活動を伴っているかというところでありまして、私も営業の仕事しておりましたので、その観点からもうちょっと頑張ってもらいたいという思いでございます。

本市が現在進めておるシティプロモーション施策、これの現状

についてお伺いします。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 本市のシティプロモーションの施策についてでございます。まちづくりビジョンに掲げるシティプロモーションの推進と関係人口の拡大、濃密化に向けまして、メールマガジンの配信をはじめSNS、地元ケーブルテレビ、コミュニティFMなど多様な媒体や手法によって情報発信を行うとともに、国内では広島市や神戸市、国外では台北温泉祭りなど、直接、他都市に赴いて、本市のPRを行っております。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。分かるんですけども、その活動の一つ一つが本来求められる市民の地域に対する愛情の醸成だったりとか他市の人がここに行ってみたい、住んでみたい、そのような動機づけに至っているのかといたら、もう一つ努力していただきたいなというところであります。

大事なのが国内にとどまらず、国外にも発信することだというふうに認知しておりますが、本市の国内外に対する対外発信、これの現状について伺います。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 国内外の取組の具体的内容でございますが、まず、国内に向けましては他都市開催のイベントでのPRやSNSを活用した情報発信を行うとともに、PR動画を作成し、SNSネット配信番組の広告などで発信をしているところでございます。また、国外に向けましては、在住外国人による情報発信チーム、YONAGOODによるPR動画の配信やSNS発信、海外イン

フルエンサーのブログやＳＮＳによる発信、韓国における日本の自治体ＰＲ専用フェイスブックによる発信を行っているところでございます。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。そうしますと、その活動、一つ一つその実績について、今現在、どのような総括をされていらっしゃるのかお伺いします。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 これについては少し最初の、当初のあたりから押さえがてら、総括の答弁をさせていただきたいと思いますが、国内、国外ということがありますけども、実は一番最初に始めたときは市内だったんです。というのは、私、市長就任した当初は米子市民の方々が米子市のことを語るときに米子には何にもないけんっていうふうに言ってしまう、あの状況をいかにまずは克服するか、特にその当時、既にＳＮＳの時代になっておりましたので、市からの情報発信はもちろんですけれども、各個人の方々が自らのＳＮＳで米子市のいいところを発信していただけるような、そんなプロモーションを目指そうということで、市民の皆様に対して米子のいいところをしっかりと伝えていくということを実は主眼として当初は始めたところでございます。そうしたところ、今に至っては、米子って何もないけんっていう人は大分というか、ほぼいなくなったのではないかなというふうには実感しております。

そこで、やはり本来の主眼たる国内、そして国外へのプロモーションでございますけれども、これは先ほど部長のほうからもろろ答弁させていただきました。そうしたことによって、例えば

国内におきましてはいわゆる関係人口というものが一定程度増えてまいりましたし、それに伴ってふるさと納税などもリピーターの方が何度もふるさと納税していただけるような状況が出てきたというふうに思っております。それをもって一定の成果は得られたのではないかと思っておりますが、ただ、今申し上げた関係人口にしても、単に人数が増えましたということは私は成果と思っております。やはり関係人口の方が観光で来ていただいたり、先ほどのようなふるさと納税という形で支援をしていただいたり、あるいはもっと深く関わりを持って、例えば、昨年やったんですけども、ちょうど梨の収穫時期に、忙しい時期に県外から手伝ってもらう方を募って、梨の収穫体験をしていただきました。そういうような形で、米子のいいところ、実際、味わってもらうっていうようなこともさせていただきました。それらをもう少し積み重ねながら、本当の成果というものをより積み上げていきたいと思っております。

さらに、これは最終的には移住定住というものにもつながっていかねばなりません。私たちはここ米子に住んでいる大きな理由はやはり自然と調和したまちがここにあって、様々な見るべきところもあってというところを評価しつつ、我々、住んでるわけですが、そのことをもっともっと県外の方、国外の方にも伝えながら、より一層米子市の評価が高まるようなシティプロモーションをこれからもしていかなければならないというふうに思っております。

○岡田議長　田村議員。

○田村議員　市長、明快な御答弁、本当にありがとうございます

た。

また、市長就任後、このシティプロモーションというものをしっかりやっていただいて、私も実は議場でも言ったんですが、米子を見るもんがないがなという言葉、大っ嫌いというようなことで、なければつくったらいいじゃないかということでいろいろ御提案をしてきました。飛行機を置いてもらったりとか、市長にも頭下げていただきました。いろいろやってきたわけなんですけども、やはりそういったことが住んでよかった、米子市というふうに思っただけのようにいま一度、今後ともやっていただきたい、御努力続けていただきたいと思います。

インバウンドというものの、これも度々お話をしておりますが、新たに創設された事業者向けの補助制度というのが先般紹介されておりました。この内容をお伺いします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 城下町エリアの観光事業者の皆様を対象といたしまして、インバウンド受入環境の整備を進めるために、新たに城下町観光事業者インバウンド受入環境整備補助金を創出したところでございます。対象となる取組といたしましては、案内看板や店内表示、案内表示も含め多言語化、パンフレットの翻訳、ホームページの多言語化対応などに活用していくことを想定しております。受入環境を整え、インバウンド需要の獲得につなげてまいりたいと考えてございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。これにつきましては、いわゆる下町、まちなか観光案内所等を手弁当で頑張っておられる方

に対しての支援制度っていうのが薄いんじゃないかということで度々お話をさせていただきました。また、副市長にはこのお話をしっかり副市長室で聞いていただき、町なかのそういった声、聞いてみたいというふうにおっしゃっていただきました。まずもって感謝を申し上げます。

これ、実際に制度として動き出しましたが、副市長の思いをお聞かせいただけたらと思います。

○岡田議長 伊澤副市長。

○伊澤副市長 今年度新たに創設いたしました補助制度についてであります。かねてより田村議員のほうから、観光行政等々の進め方、あるいは体制も含めた在り方、たくさんの御指摘を受けております。その中で、午前中の答弁にもありましたけど、やはり観光事業というのは民間の事業者の皆さんがお取り組みいただく、これが全てであります。最終的にはビジネスとして自立していただくということがまちの観光資源そのものでありますので、これをどう達成していくかということが、これが我々の課題であります。そういった意味で、少しやはり現場の実情というのを我々なりに把握していたつもりであります。そのコミュニケーションが十分じゃないんじゃないかなっていうふうな思いを私も持っておりました。御指摘もございましたので、直接そういったお声を聞く場というのを実は設けております。総合政策部長の午前中の答弁にもありましたけども、いわゆる事業者の皆さんから直接いろんなお取組のお考えや、あるいはお困り事や、あるいはどういった支援を求めておられるのかと、こういったようなことをお聞きして、一緒になって次の作戦を考えていくと、こういった取

組を始めております。そういったきっかけをいただいたということにつきましては、私のほうからも田村議員に感謝を申し上げたいと思います。引き続き、こういった取組を重ねることで実効性のある取組、そしてそれがまちの観光資源になっていくということ、そういった取組進めてまいりたいと思います。以上であります。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。それで、この制度設計に当たり、町なか観光事業者等の要望というのは先ほど聞いていただいたということなんですけども、具体的にどういった感じだったんでしょうかお伺いします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 この制度創設に当たりまして、事業者のお声を聞くというところは先ほどの副市長の答弁のとおりでございました。ただ、その上で、補助率や補助上限などにつきましては昨年度から実施しております市内の飲食店のインバウンド受入環境整備補助制度など他の補助制度との整合を図りながら設計したところでございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、分かりました。既にあった、そういったインバウンドの支援策等もあったんですけれども、これら制度を創設することによって今までと違う入り込み客数などの目標設定などされてらっしゃるのかお伺いします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 城下町観光事業者インバウンド受入環境整

備補助金に特化しました具体的な目標というのは設定してございませんが、先ほど田村議員がおっしゃられたように、制度の実施による効果の把握っていうのは必要というふうに考えてございます。そのため、補助金を活用していただいた事業者の皆様へ聞き取りを行いまして、整備後の外国人の観光客の来訪の状況など、また何か制度の不備など、そういったことを確認していきたいというふうに考えてございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、分かりました。本市、そうやって補助制度がスタートしたということなんですけれども、鳥取県さんのほうも既に外国人観光客受入環境整備事業、外国人観光客誘致推進事業、またSDGsツーリズム推進事業、インバウンド向けオンラインコンテンツ制作等支援事業ということで、いろんなチャンネルをつくっておられます。これに、県がされてるのでいいんじゃないかというお気持ちもあるのかも分かりませんが、この補助額が米子市の場合、ちょっと少ないような気がしております。これについてもうちょっと増額なり、力を入れていただくべきだと思うんですが、御所見を伺います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 県が実施しておられます同様の補助事業であります鳥取県外国人観光客倍增促進補助金と比べますと、上限額が低いということにつきましては認識してございます。本市の制度内容といたしましては、県の制度よりも補助率を高く設定し、下限額を設けない、そういったことで、事業者の皆様の自己負担額が少なくてもこういった利用しやすい補助制度というふうにし

たものと考えてございます。引き続き、事業者の御意見を伺いながら、今後、より効果的な制度となるよう考えてまいります。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 よく分かりました。県とすみ分けをしておられるということだと思います。また、県は最低10万円以上とか、そういったちょっと取っつきにくいのかなというふうに思いますので、それを補完する意味で米子市の制度があるという認識をいただきました。ありがとうございます。

それで、このシティプロモーション、いわゆる観光客数については、今まで度々この場で御質問すると、県のカウントしている入湯税のカウント数でいいですとという御答弁が重なって、何回も聞いております。それに対して、以前から市独自の入り込み客数のカウント手法を検討すべきではないかというふうに度々御提案申し上げておりました。これについての現状を伺います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 平成28年の田村議員の御質問ですと、県のほうが入り込み客数を計っているというところで、米子市独自のという御質問だったというふうに認識をしてございます。ちょっとそのことを前提に、今の御質問も踏まえて答弁させていただきたいんですけれども、私もやはり入り込みというのが観光行政にとって、つまり、もっと言えば、観光事業者にとって必ずしも成果に連動する統計とは言えない部分があるなど。つまり、来られたのは来られたとしても、何も消費もせずに次の場所に行かれたということであっては、これは、やはり観光事業者からすれば通り過ぎる

だけのお客さんになってしまうわけですから、ちょっと問題があるなというところで、入湯税は米子市の市税ということですが、各宿泊施設は、御存じのとおり、宿泊台帳、宿泊者の台帳を整備しておられまして、そこには当然、国外、国内両方、どこから来られたかということも分かる統計でございますし、さらに申し上げますと、宿泊客はまさにそこに宿泊をされ、宿泊費を、宿泊代を消費され、そして場合によっては夕食、朝食、こうした食事も消費されるであろうお客様でありまして、まずはそこを重視しようということで、この宿泊客数というものを米子市としては重要視した観光統計にしているというところでございます。しかしながら、それでももっともっと、例えばインバウンドもそうでしょうし、より一層お客様に訴求するための施策を考えるためには観光統計について何ができるのかということをもう少し研究して、深めていきたいというふうに思っております。

余談ですけれども、日本の観光行政、やっぱり入り込み偏重だと私も思っております。そうすると何が起こるかという、例えばオーバーツーリズムという言葉がございますけれども、米子はまだそのオーバーツーリズムを懸念するような段階には全くありませんが、人が来さえすればよいのかということでは決してないと思っておりますので、やはり観光統計については、今後もしっかり研究しながら、こういった形で取れるのか、これはこれからも詰めていきたいというふうに思います。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 よく分かりました。ありがとうございます。まさにおっしゃるとおりでして、私も米子城、米子城ってずっと言って

おりますけれども、やはりお金を落としてもらわないといけないと、マネタイズについては度々訴えておりますし、午前中も稲田議員からも同様のお話があったというふうに思います。やはりこれはお金に、落としていただく施策っていうのは引き続きやっていかんといかんのかなというふうに思います。

それで、実際にこの米子に来ていただくきっかけとして、今、SNS等を通じてっていうことも増えてきてるんですが、いわゆる米子市の観光をPRする大使制度っていうのをつくっていただきました。これもありがとうございました。これの今の現状をお伺いいたします。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 観光PR大使制度についてでございます。これまで米子市観光協会が所管していた米子ふるさと観光大使と統合する形で、昨年、新たに米子市独自のアンバサダー制度として米子市ふるさとPR大使を創設しております。第1号の大使として、モデル・俳優の山本舞香さんに御就任いただいたところでございます。

なお、新制度への移行に伴い、従前の米子ふるさと観光大使の皆様、65名いらっしゃいましたけど、この皆様に意向確認を行い、継続の意向を示していただいた40名の方に改めて委嘱状をお渡しし、米子市ふるさとPR大使として活動をいただいているところでございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、分かりました。この委嘱を引き続きやっていただける40名の方ということでした。本当に心から感謝したい

と思いますが、大使の皆さんのおおのの情報発信について、本市はどのくらい把握してるのかなということ、関与の具合っていうんですか、それについては以前もお伺いしたところなんですけれども、現在の関与の状況、これをお伺いします。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 大使の皆様には、様々な機会を捉えて、情報発信や本市の魅力を伝えていただいているところでございます。例えばプロドラマーの横田誓哉さんについては、SNSで度々、米子に関する発信をされたり、米子で新たな音楽イベントを開催して、県外からの誘客に努めていただいたり、また米子の名所や名店を名前にした曲を発表されたりしていると把握をしております。本市からは大使の皆様に対して定期的に市政情報を提供しておりますほか、毎年、東京で交流会を開催し、市の取組の説明や意見交換を実施しております。今後とも大使の皆様と定期的にコミュニケーションを図り、本市のPR活動に御尽力していただきたいと考えております。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、分かりました。この40名、41名になるんですかね、この方々が横田さんと同じような活躍、活動をしてくだされば、もう一つ効果的なのかなというふうに思います。これは私の臆測でしかないのですが、発信がほぼできてないとかいう方々についてはぜひ市として改めて発信をお願いしますというふうに一声かけると、あっ、そうだったと、僕は観光PR大使だったんだという認識を新たにして、発信していただけるかも分かりませんので、その辺りのタッチ、どうぞよろしくお願いし

たいと思います。

続きまして、以前、この本庁舎 1 階で、鳥取県のふるさと大使の日向坂 4 6、平尾帆夏さん、山口陽世さん、特別展示をやっていただきました。非常に多くの方に来ていただいたということと、あと、以前の答弁では数百万円の経済効果があったんじゃないかというふうな御答弁もいただいております。非常に影響力があったというふうに感じておりますが、このお一人、平尾帆夏さんという方がエフエム山陰、毎週土曜日の朝 8 時半から 8 時 45 分まで御自身のラジオ番組「ひら砲らじお」という番組を持っておられて、これが全国で聴けると、r a d i k o 等で。そういうことで、全国に多くのリスナーがいらっしゃると。非常に人気のある番組です。

去る 8 月 23 日の放送では、8 月 30 日に放送 100 回を記念して、ファンの方がぜひ公開収録をやったらどうかというおはがき、メール等があって、それに対して平尾さんが、米子とは言わなかったんですが、公会堂とかさなめホールでできたらいいですねというふうに言っておられました。これは、当然、鳥取のふるさと大使でもあるので、平井知事にも来てほしいなみたいなこと言っておりましたが、これ、ぜひ米子もしっかりと手を挙げて、支援できないかなというふうに思っております。何らかの形で関与したい、関与していただきたい、そう考えますが、御所見を伺います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 本当にそういった番組までしっかりチェックしている田村議員はすごいなというふうに思いますけれども、今、そう

いうふうに質問の中で御紹介をいただきました。まさに日向坂 46 の山口さん、平尾さんにおかれましては、この地元から全国で大活躍されてるということで、地元としても大変誇りに思うところでございますし、また昨年実施させていただきました応援展示につきましても、本当に県の内外からたくさんのお客様にお越しいただきまして、その影響力の大きさというものを改めて認識をしたところでございます。

公開収録について、公会堂もさなめホールも、これ、まさに米子でございますんで、ぜひとも、エフエム山陰さんのお考えもおありだとは思いますが、そういった御意向があるということであれば、地元としてはしっかり協力させていただきますんで、また情報、御提供いただければ大変ありがたいなというふうに思うところでございます。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。もうぜひ前向きに御検討いただきたいと思います。

それで、市の公式キャラクター、ヨネギーズ、これが市の SNS で、私はもう今日から日向坂ファンだと、私はおひさまだと言って、宣言をしていただいております、非常に多くの反響がございました。この宣言以降、私の目にはもうちょっと応援しているような雰囲気っていうのはあまり伝わってこなかったんですけども、その動きについて伺います。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 様々な機会を捉えてシティプロモーションを行うことは非常に重要であると認識をしております。今年の 7 月に、

平尾帆夏さんが22歳のお誕生日を迎えるのに当たりまして、ファンの方が制作された平尾さんの生誕をお祝いするポスターを市役所の地下の食堂に貼りますとともに、誕生日の当日にはSNSでお祝いメッセージの発信を行ったところでございます。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 まずもって、ありがとうございます。引き続き、やはりこういった発信っていうのはファンの方々もすごく喜ばれますので、ぜひお願いしたいと思っております。

去る8月9日なんですけれども、米子におひさま、ファンの皆さんが集まりました。私も参加させていただいたんですけども、地元鳥取、島根はもちろん、東京、神奈川、福井、山口など遠方の方が来ていただいておりますと、私もお話聞いてますと、市内、もう米子は聖地ですよという話なんですね。どういうことかといいますと、このお二人が出ていたユーチューブの番組の中で三本松口駅とか両三柳にある回転ずし屋さんとかバッティングセンターっていうのが映ってるんですが、そこが聖地だということで回ってるって言うんですよ。私もちょっとびっくりしまして、そうなのかと。そんなパワーで米子に足を運んでいただいたということ、まずもって、このおひさまの皆さんには感謝したいと思いますし、これは、もう米子市としてはしっかりこういった動きには乗っかっていただきたいなというふうに思っております。

次に移りますが、このヨネギーズというキャラクターですけれども、東草市から訪問団来られたんですけれども、20周年の、このときに向こうの市長さんが向こうのキャラクターを、縫いぐるみを持ってこられました。また、先般、交代になった中国の保

定市の交流員さん、これも馬のハンバーガーの縫いぐるみですか、市のキャラクターだということで縫いぐるみを持ってこられてるんですね。米子は、よく考えたら、そんなのないなと。何か1個見たことあるんですけれども、一般的に普及してるようなグッズとしてはないのかな。駅に行っても、例えば今治市なんか行くとバリィさんコーナーとか、何とか市に行くとして、とにかくそのまちのキャラクターというのが売ってたりするんです。私もそういうのが案外好きなので買って帰るんですが、米子、こういったものも商品化というものも考えてもいいんじゃないかと思いますが、見解を伺います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 ヨネギーズに関わりますグッズでございますが、これは民間事業者におかれまして、ハンドタオルやステッカー、キーホルダー、ストラップなどが商品化されて、販売をされていると承知をしてございます。縫いぐるみなどの商品化につきましては、民間事業者による作成の意向などがある場合に本市が持っておりますヨネギーズの使用基準に従い適宜検討することとしております。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 この民間事業者による作成の意向がある場合のみみたいな、そんな感じなんですよ。やはりこれは米子市としてもこの米子のかわいいキャラクターを観光客の方に国内外に持って帰ってもらい、それぐらいの気負いがあるといいんじゃないかというふうに思います。これはぜひ検討していただきたいと思います。要望しておきます。

次に行きますが、シティプロモーションにおいて、他市との連携というのは非常に大事だというふうに私は考えております。現在の状況をお伺いします。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 議員おっしゃるように、シティプロモーションの推進に当たりましては他市との連携も重要でございまして、鳥取中西部圏域、あるいは中海・宍道湖・大山圏域におきまして、観光面での連携を図っているところでございます。また、神戸市での地ビールフェスタ開催時におきましては、神戸市との連携も図っていたり、そういうこともしているところでございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 これはよく分かるんですけども、やはり私としては、提案としては提携先、今お伺いしてるんですけども、そうではなくて、米子市の持つ観光資源、そういったものが類似しているまち、これをぜひ参考にできるんじゃないかというふうに考えております。午前中も大洲市のお話も出ました。私はもう大洲市はもちろん城下町の再整備というところでの共通点がありますし、岡山県の津山市、これは城下町の再整備と併せて鉄道の扇形車庫、転車台、米子市と同じインフラを持っている。なおかつ、津山市さんは、前も御紹介しましたが、台湾の台中、彰化市さんとの扇形車庫を持つ者同士で交流しようというふうに訴えておられます。非常に素晴らしいと思います。また、津山市、実は私も先般泊まってきたんですけども、城東地区という町並み保存のまち、保存されたまちがあるんですけども、そ

ういったところも、古民家を改装したホテルに私、泊まりましたが、そういった学ぶべき点ってというのがやっぱりあるまちっていうものを選定をして、交流をしたらどうかというふうに考えております。

大洲市さんから訪問団ってというのが以前、来ておったんですけども、これについての対応状況っていうのをお聞かせいただけますでしょうか。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 本市と大洲市の文化交流事業につきましては、米子城築城４００年を迎えた平成１３年から平成２９年までの間、実施してきております。主な取組といたしまして、小学生を対象といたしました訪問交流や両市にゆかりのある中江藤樹の記念フォーラム、歴史講演会、食文化交流などございました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大のときに交流事業を中断して以降、現在まで再開には至っていないところでございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、分かりました。コロナで中断ということだったら、ぜひこれ、再開していただきたい。もう正常化しておりますので、ぜひ御検討をいただきたいと思います。

次に、岡山県津山市、こことは平成１０年１０月に芸術文化交流都市の締結をしております。現在までの交流実績を伺います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 これまでの実績でございますが、旧出雲街道の中心都市でございます米子市、津山市、それに加え出雲市、

そちらの3市のそれぞれの地域文化の振興を図ることを目的に、平成10年10月に芸術文化交流都市の連携に関する協約を締結し、芸術文化に関する情報交換や相互交流、共同事業などを平成11年度から平成20年度までの10年間に実施しておりました。主な取組といたしましては、米子、津山、両市の音楽祭へ市民音楽団体の相互派遣や出雲ドームで開催される2000人の吹奏楽への両市の小中学校吹奏楽団の派遣をはじめ各市持ち回りによります3市交流美術展、写真展、俳句会などを開催し、市民の芸術文化交流を行ったものでございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 私も、お恥ずかしながら、この芸術文化交流都市締結っていうのを全然存じてなかったんですが、先般、津山市議会の金田さんという議員さんとお話しした際に、いや、米子市さんとは芸術文化交流都市ですからねという話をされまして、私はびっくりして、えっ、何ですか、それというふうに聞き返したというところで分かったことでございます。やはり先方のほうがそうやってしっかり覚えておられて、こちらのほうがそういう認識がないってというのは一番失礼、よろしくないなというふうに思いましたし、これに関しては途絶えてるということですが、しっかりとこれ、交流の裾野を広げたらどうかなというふうに思っております。

先ほど来、出させていただきました大洲市、津山市ともに下町の観光整備など文化観光等含め、インバウンドも含め、大いに参考となるまちでございます。これにつきましては一段格上げした姉妹都市交流、こういったものも検討できないかというふうに御

提案しますが、見解を伺います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 大洲市、津山市との姉妹都市交流の締結について、そのようには現在考えてございませんが、両市のやっておられる施策や取組を本市が参考とさせていただくなど、必要に応じた交流を進めていきたいというふうに考えてございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 ぜひお願いをいたします。じゃあ、続いて、項目が替わって、地ビールフェスタの現状についてお伺いしたいと思いますが、平成27年6月19日、この議会で私、大山地ビールフェスタのスタッフということで、大山でこんなイベントやってますという御提案とぜひ米子市も取り組んでいただきたいというふうに申し上げ、その後、平成30年7月からスタートしたということでございます。非常に私自身も思い入れがあるためにいつも参加してるんですけども、田村さん、そんなにビール好きなのかとよく言われるんですが、そうじゃなくて、やはり立ち上げから、その以前の大山のほうからの流れとして私としては興味があると。もう盛り上がっていただきたい、そういう思いを持っております。それについて、今現在の現状と課題、これをお伺いします。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 地ビールフェスタは、本年8月で7周年を迎えられたところでございまして、毎月末に定期的開催されるイベントとして地域に定着し、にぎわいの創出や地域の活性化に大き

く寄与されているものと認識しております。参加者数の状況につきましては、春先の時期やハロウィンイベントが行われる10月のいわゆるハイシーズンにおいて、おおむね2,000人程度の来場があると伺っております。一方で、年間を通じた全体的な来場者数については伸び悩んでいる状況であり、これが課題かなというふうに伺っております。現在は公会堂での開催も増やされており、これにより天候による影響が軽減され、より安定的な運営が可能になってると承知しております。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、分かりました。運営いただいている皆様方に頭が下がる思いですし、米子のにぎわい創出のために日々頑張っている、本当に感謝したいと思います。

これ、過去の議会答弁によりますと、始まってから8月2,300人、9月2,500人、10月3,000人みたいな、そういったカウントをされてらっしゃったようでございますが、これが頭打ちといいたいでしょうか、私自身見えていても、いつものメンバーといいたいでしょうか、そういう人たち、コアな方々ももちろんいらっしゃるんですけども、やはりもっと広く県内外に知らしめてもいいんじゃないかなというふうに考えております。以前、この議会におきまして、近隣のホテル、皆生、駅前等ですね、に泊まってもらっしゃる観光客向けに本日開催日ですというようなプレートを作って、そのときにはポスターって言ってたかな、こういったプレートをフロントのところにぽんと立てておいて、キャッチーな、本日、米子地ビールフェスタ開催日ということですね、天候にもよるんでしょうけれども、下のところにビール1杯無料というよ

うな形で1杯無料クーポンというのをお渡しすれば、県外の方に限るんですけれども、来ていただければ、1杯だけ飲んで、じゃあ、帰るわって言う人、多分いらっしゃらない。やはりおいしいなということで、2杯、3杯、そしておいしいものを食べていただけるんじゃないかというふうに考えており、これについては再度提案をしたいと思いますが、御見解を伺います。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 観光客や宿泊客などに対します誘導策については、議員、今おっしゃられましたとおり、これまでも御提案いただいております、主催者側である地ビールフェスタの実行委員会には情報を共有してきたところでございます。改めて今回御提案いただいたということで、1杯無料のクーポンの発行についても改めて主催者と情報を共有したいと思います。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。ぜひお願いをいたします。ビール1杯500円なんで、100人でも5万円ということでございます。どれだけの実数あるのか分かりませんが、ぜひお試しでスタートしていただいてもそんなに大きい予算は必要ないのかなというふうに思います。

じゃあ、続きまして、まちで行われるイベント等、住民の方の地元愛の醸成ですか、そういったものについては、例えばがいな祭だったり、地域の祭りだったり、そういったものについて地元愛というのは深まるんじゃないかと思うんですけれども、他市の状況を見てますと、私も実際に他市で聞いたんですけれども、防災無線、これでイベントのお知らせなんかを普通にやってるんで

すね。びっくりいたしました。米子も例えば地域放送なんかだと、五千石だとかつしまつりの御案内だったりっていうのはあるんですけども、あと、公民館の公民館大学のイベントっていうのはあるんですけども、それ以外のお知らせっていうのはあまり聞かないですね。例えば、防災伯耆町さんなんかは、今日ですか、岸本中学校、溝口中学校の体育祭のお知らせとか会計年度任用職員募集のお知らせとか、そういった結構身近な情報も流しておられます。また、県外から来た人なんかはそういったもの聞くと、あっ、このまちでは今日、こんなイベントあるんだというようなことのお知らせにもなる、活用できるということから考えると、こういった防災行政無線を活用した広報というものをもっと拡充していいんじゃないかというふうに考えております。見解を伺います。

○岡田議長 松本防災安全監。

○松本防災安全監 防災行政無線につきましては、災害情報など市民の安全、生命に係る情報を広く周知する手段として活用しております。一方、平常時におきましては、施設や設備の有効活用を図るため、行政からの広報をはじめとしまして、地域イベントの案内等地域における広報手段として活用できる運用を行っております。

なお、平常時における地域での放送につきましては公共性が高い内容であることを必要としておりますけれども、具体的な放送内容につきましては地域の実情に照らし合わせて、地域ごとに判断をした上で放送を行っているところでございます。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、よく分かりました。ということは、私も実際に御相談があったんですけれども、村の鎮守のお祭りとか、そういったもの、地域でやっておられる、尚徳だったらセントロ・マントロとか、いろいろあるんですけれども、そういったものについても公民館と御相談いただいて、そういったものの広報で使うことはできるというふうに解釈してよろしいでしょうか。

○岡田議長 松本防災安全監。

○松本防災安全監 具体的なものというのは私ども、分かりませんけれども、実際、それぞれ地域でやっておられるイベント等につきましては、御質問おっしゃられましたとおり、そのとおりの運用でよろしいかと思っております。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。地域で喜ばれる方がたくさんいらっしゃると思います。ありがとうございました。

それでは、引き続いて、次は米子城跡の復元とにぎわい創出について・19、これについて伺ってまいります。

私のこの19と申し上げたのは、平成29年に保存活用計画ができ、平成31年3月に整備基本計画ができた、それまでもずっと米子城関連の質問してきたんですが、それを受けて1、ボリュームワンからスタートをさせていただき、今、19ということでございます。その間、米子城の復元であるとかマネタイズであるとか、様々な御提案をしてまいりましたけれども、いよいよ20も近づいてきたなと感慨深いものがございます。

それでは、お伺いをしてまいります。現在の進捗状況、これをお伺いします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 午前中の稲田議員の答弁にもございましたが、今、三の丸広場の供用開始を来年秋に、それに向けて整備を、進捗を図っているところでございます。今年度につきましては、三の丸広場の整備工事を実施しておりまして、遊歩道の整備やあずまや、ベンチなど構造物の設置のほか芝張り工事や内堀の舗装工事の一部を実施する予定がございます。また、次年度以降、登城路の整備に向け樹木の伐採も実施することにしてございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、よく分かりました。この内堀についてなんですけれども、以前、発掘調査の結果、内堀の位置が分かりました。結構崩れとって、私もこれ、大変だなと思ったんですけれども、当初のパース図ではこれを掘り下げて、復元をして、見通せるような整備というものが示されておりました。これについては、文化庁の史跡調査担当官とのお話の中で、それを通して、米子城の本丸を見通すというこのダイナミックさが米子城のすばらしいところだというふうなお言葉も頂戴しておりましたが、今現在の整備状況見てますと、何かもう埋めちゃってる感じがしております。これ、変更になったんでしょうか伺います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 内堀の整備内容といいましょうか、それを決定するに当たって、様々な検討をしておりまして。掘り下げて内堀を表現する方法も当然、検討したところでございますが、地下に保存されています遺構を損傷するリスクや地下水の影響、ま

た来訪いただく皆様の安全面などを考慮し、高さを抑えた形状により堀を表現することにしたものでございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 残念でございます。でも、仕方ないですね。もう工事は着々と進んでおるということでございます。

来年秋にこの三の丸広場が完成ということになっておりますけれども、この完成イベント、これはぜひやるべきだと思っておりますが、概要等決まっているのでしょうかお伺いをいたします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 市民の皆様や観光客の方々に三の丸広場の憩いの場や交流の場としての魅力を発信するために完成イベントは必要であると考えてございます。内容というところの御質問もいただきましたけれども、そういった内容につきましては今後検討していきたいというふうに考えてございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、分かりました。ぜひ決めていただきたいなと思っております。

その完成の折にはぜひ先ほど御紹介をいたしました米子城と関係性の深い大洲城の鉄砲隊であるとか松山城など、両方とも復元してるんですよ。大洲城は復元天守ありますし、津山城は備中やぐら、これを復元して、非常に多くの観光客を入れてらっしゃるということでございます。そういったことから、将来的にぜひ深いつながりを持っていただきたいという希望を持ちながら、この大洲城の鉄砲隊、津山城のそういった武者の方々、こういったものの訪問団の招聘をぜひ検討していただきたいというふうに

提案しますが、見解を伺います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 大洲市は本市と歴史的なつながりがありまし
すし、交流もしてきたというところでございますし、津山として
も先ほど議員さんのほうからおっしゃられたような交流の実績と
いうのがございます。そういったことでありますことから、御提
案、そういった方々をお呼びしたらどうかということも含めなが
ら、今後検討していきたいというふうに考えてございます。以上
です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 ぜひお願いをいたします。以前、令和5年6月定例
会において、米子城跡の除草ボランティアの制度導入について御
提案をしております。その際には前向きな答弁を頂戴してありま
したが、その後の現状をお伺いします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 現在4つの団体の皆様に毎年、除草作業を
していただいております。実施時期につきましては、団体の意向
を伺いながら、本市が調整をしてるところでございます。また、
それに合わせて、市報で除草ボランティアの募集を行っておりま
して、これまで市民の方や高校生、民間企業の方々に多く参加し
ていただいております。

なお、除草作業に係る必要な道具や燃料、その他飲物など、必
要に応じて本市から提供して、除草を行っているところでござい
ます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、よく分かりました。引き続き、多くの市民の方に米子城を愛していただく、そういったボランティア活動に多くの方に御参加いただきたいなというふうに思っておりますし、御対応よろしく願いをいたします。

私は米子城、もう1万人上がっても一銭にもならんがなというようなお話があって、私もマネタイズについてはくどくどお話をしておりました。米子城という名前を冠した商品、これの開発というのを以前からも訴えをしておりました。散見するところ、いろんなものが最近、出だしておるといふふうに聞いておりますが、現在の米子城跡関連商品の開発状況をお伺いします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 米子城跡に関連します商品開発につきましては、市内の事業者の方々によりまして様々な取組を進めていただいております。現在、米子城をモチーフとした菓子類ですとかコーヒー、お酒、懐石料理、また御城印など多くの商品が開発、販売されているものと承知しておりまして、取組に対し感謝しているところでございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。以前、今年の3月定例会で米子城のキャラクターとして非公式のキャラクター「よごとなご」というものができて、それが商品化されてるよという状況が今、ございます。これらの本市の対応、これを看過していいのかなと。私はぜひこれを活用されたらどうかなというふうに感じておりますが、見解をお伺いいたします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 議員から御紹介いただきました米子城関連商品につきまして、「よごとなご」をモチーフとされたようなクッキーであったと思っておりますが、今後、ダイヤモンド大山観望会などのイベントでの配付とか、そのような活用については考えてございます。しかしながら、現時点におきまして、米子城跡に公式キャラクターを設定する考えは今持っていないというところでございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 現在はということなので、今後はぜひ御検討いただきたいというふうに思います。例えば、ひこにゃんに会いに彦根に行ったなんていう、私、知り合いますけれども、ええって、びっくりしたんです。やはりそういった人気のあるものは会いに行きたいというような気になるということでございます。米子市はもうヨネギーズがしっかりいるんですけども、ぜひ米子城についても御検討いただきたい、これは言い続けていきたいとします。

この米子城跡の関連商品群というのは今現在、まちなか観光案内所であるとか一定のエリアでしか販売していないという状況であります。それぞれの販売されてたり、商品開発されてる、売ってらっしゃる方々というのはやはり商売としてそれを販売されてらっしゃるわけですし、これを、米子市としてぜひ応援をするという意味で、ふるさと納税の返礼品にどんどん取り入れていただけないかなというふうに、これを御提案したいと思いますが、見解を伺います。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長　まず、事業者が返礼品としての提供を希望されます場合にはふるさと納税返礼品の地場産業基準に合致しているかを確認いたしまして、返礼品として提供いただけるものか、事業者と話をしてみたいと思います。

○岡田議長　田村議員。

○田村議員　ありがとうございます。ぜひお願いをしたいと思います。それこそ、「よごとなご」がどんどん出ていって、あっ、米子城行ってみたいなというような話になればうれしいですし、その傍らにはぜひヨネギーズの縫いぐるみも入ってるというのが私は望ましいんじゃないかなというふうに感じております。

先般、神奈川県にお住まいの米子市出身の方が市役所で先進的な技術を取り入れた映像表示についてのプレゼンテーションを行われました。私も拝見しましたが、非常に不思議な感じでありました。そういった、やっぱり先進技術、しかも米子の方が開発してるということでございますので、現在の番所であつたりとか市役所であつたり、また山陰歴史館などで新たな、手法の映像表示、そういったものを取り入れて、やってもいいんじゃないかなというふうに私は感じております。見解を伺います。

○岡田議長　石田文化観光局長。

○石田文化観光局長　議員が御提案いただきました仮想現実などの先進的な、そういった映像でございますが、臨場感があふれる体験ができ、来場者の満足度を高めるサービスであると認識しております。しかしながら、導入に関しまして、費用面などを含め多くのことを解決していく必要があるというふうに考えてございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 はい、分かりました。ぜひ検討してやってください。

次に、駅前から彫刻ロードを通じて米子城跡まで誘導するというお話、私以外の議員さんでも何人かいらっしゃいました。あそこにQRコードが今埋めていただいておりますけれども、それをもって例えばデジタルスタンプとして歩くと、伝い歩く、そういった手法を導入すべきだと考えます。見解を伺います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 米子彫刻ロードから米子城跡までのエリアは歩いて楽しいまちづくりを進める上で重要なエリアであると認識してございます。議員がおっしゃいましたように、昨年度、彫刻作品の銘板に二次元コードを設置し、作品の情報を表示する仕組みを構築したところでございます。デジタルスタンプは、観光客の皆様の回遊性の向上や周辺地域の魅力発信に有効な手段の一つであると考えますが、導入に必要なシステム構築や運用経費、継続的な管理体制など課題があると認識してございます。議員から御提案いただいた内容も含め、当該エリアの魅力発信について検討を進めていきたいと考えてございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 ぜひよろしく願いをいたします。続きまして、この米子城跡を盛り上げていただく団体というのはあるわけなんですけども、本市の支援状況についてお伺いします。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 これについては私のほうから答弁させていただきませんが、令和4年度に実施をいたしました米子城を活用した観光コ

ンテツ造成事業、これにおきまして米子城武者隊用に甲冑を整備いたしまして、イベントなどで活用していただいてるということがございます。また、今年度につきましては、城下町エリアの観光事業者を対象としまして、インバウンド受入環境の整備を進めたるための補助金を創設したところでもございます。米子城を盛り上げていただく団体につきまして申請内容によっては補助対象になり得ると想定しておりますので、引き続き制度の周知を行ってるところでございます。これまで本当に例えば米子城武者隊さんなどには様々なイベントに登場していただきまして、大いに盛り上げていただいたところでございますし、その演舞というものの精度といいましょうか、内容も非常に充実してきているところだというふうなことを認識しております。したがいまして、今後も米子市としてできる支援がありましたら、何分、米子市の側に目立ったアイデアというのがなかなか乏しいものですから、ぜひ御提案をいただいて、そしてそれを実現するような形で支援をさせていただけたらというふうに思いますので、また一緒に考えられたらというふうに思っております。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 前向きなお話、大変うれしく思います。ありがとうございました。

この米子城、先ほどの来年秋の完成のイベントっていう話も言いましたけども、他市では旗印、のぼり旗、模擬鉄砲、衣装など、そういった備品をかなり充実して持ってらっしゃるんですね、先ほどの甲冑の支援もあったんですけども。こういったものについては市として購入して、いつでもばあっと旗がはためくと、そう

いった状況をつくってもいいんじゃないかと思っておりますが、
見解を伺います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 これにつきましても、先ほちょっと米子城武者隊の例を出させていただきましたけれども、民業としてできるものはともかくといたしまして、もう市でやるしかないなというものにつきましても、市のPRでもありますし、また市のシンボルとしても米子城のPRになるわけでございますので、何がということではなく、必要なものについては市のほうでそろえさせていただきたいというふうに思っております。また、三の丸広場の供用開始も予定されておりますので、例えばオープニングイベントだとか、そうした際に必要なものだとかその後も続けて使うようなもの、こうしたものについては、何が 필요한のか、いろいろと検討しながら、必要に応じて購入を考えていきたいと思っております。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。これ、本当に市で持たなきゃいけないものというのはやはりあるわけで、この広場を、ぐるりを米子城とか吉川広家とか中村一忠、そういった戦国から江戸の武将の方の名前だったりとか、いろんな米子城に関するようなものがばたばたと、あっ、何かやってるぞというような雰囲気もできます。ぜひやっていただきたいというふうに思います。

時間も押し迫ってまいりました。建造物復元の可能性、これについては度々お伺いをしております。今、整備計画も着々と進む中、今現在の見解を伺います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 建造物の復元につきましては、歴史的、文化的価値を踏まえた上で、専門的知見に基づく調査、検討が必要になるものと認識してございます。今後、現地調査などを進めていく段階におきまして、復元の技術的可能性や実現性について判断することになると考えてございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。この建造物復元というのは発掘調査であるとか、いろんな慎重な手続ってというのが当然、必要だと思うんですけども、以前も同じ質問させていただきましたが、文化庁でお話伺ったら、例えば白壁であると、天守ってというのは難しいというのははっきり言われましたけれども、やぐらとか白壁についてはそこまで要件、高くないんですよというふうにおっしゃっていただいております。こういったものについては、これも度々の御提案になりますが、前倒しの復元検討というものをできないものか、見解をお伺いします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 今後の米子城跡の整備につきましては、令和8年度秋の供用開始を目指して三の丸工事を進めてございます。それ以降は他のエリアの整備に向け準備を進めていくこととしてございます。その中で、やぐらや土塀などということですが、重ねての答弁になりますが、歴史建造物の復元に当たっては位置や規模、構造などについて十分な根拠が必要になると考えております。今後の発掘調査や史資料の調査などを踏まえた復元の可能性を判断することになると考えてございます。以上です。

○岡田議長 田村議員。

○田村議員 これについては、やはり期待をして待っておられる方ってというのは市内にたくさんいらっしゃいます。私も今、３期１２年ということでありまして、あと８年ぐらいの間には方針が決まればいいなというふうに考えておりますし、引き続き、米子市民のシビックプライドの醸成につながるようなまちづくり、打って出る米子市を目指して頑張りたいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○岡田議長 以上で市政一般に対する質問は終わりました。

～～～～～～～～～～～～～～～～

第２ 議案第６８号～議案第７６号

○岡田議長 次に、日程第２、議案第６８号から第７６号までの９件を一括して議題といたします。

これより９件の議案について質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡田議長 別にないものと認め、質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております９件の議案については、配付しております付託区分表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

～～～～～～～～～～～～～～～～

第３ 陳情第９９号～陳情第１０１号

○岡田議長 次に、日程第３、陳情第９９号から第１０１号までの３件を一括して議題といたします。

ただいま議題となっております３件の陳情については、配付しております付託区分表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

以上で本日の日程は終了いたしました。

お諮りいたします。本日はこれをもって散会し、明 11 日、13 日から 15 日まで、20 日、21 日、23 日、26 日から 28 日まで及び 30 日は休会とし、12 日、16 日から 19 日まで、22 日、24 日、25 日及び 29 日は委員会審査を行い、10 月 1 日午前 10 時から会議を開きたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○岡田議長 御異議なしと認め、そのように決定いたします。

本日はこれをもって散会いたします。

午後 2 時 02 分 散会